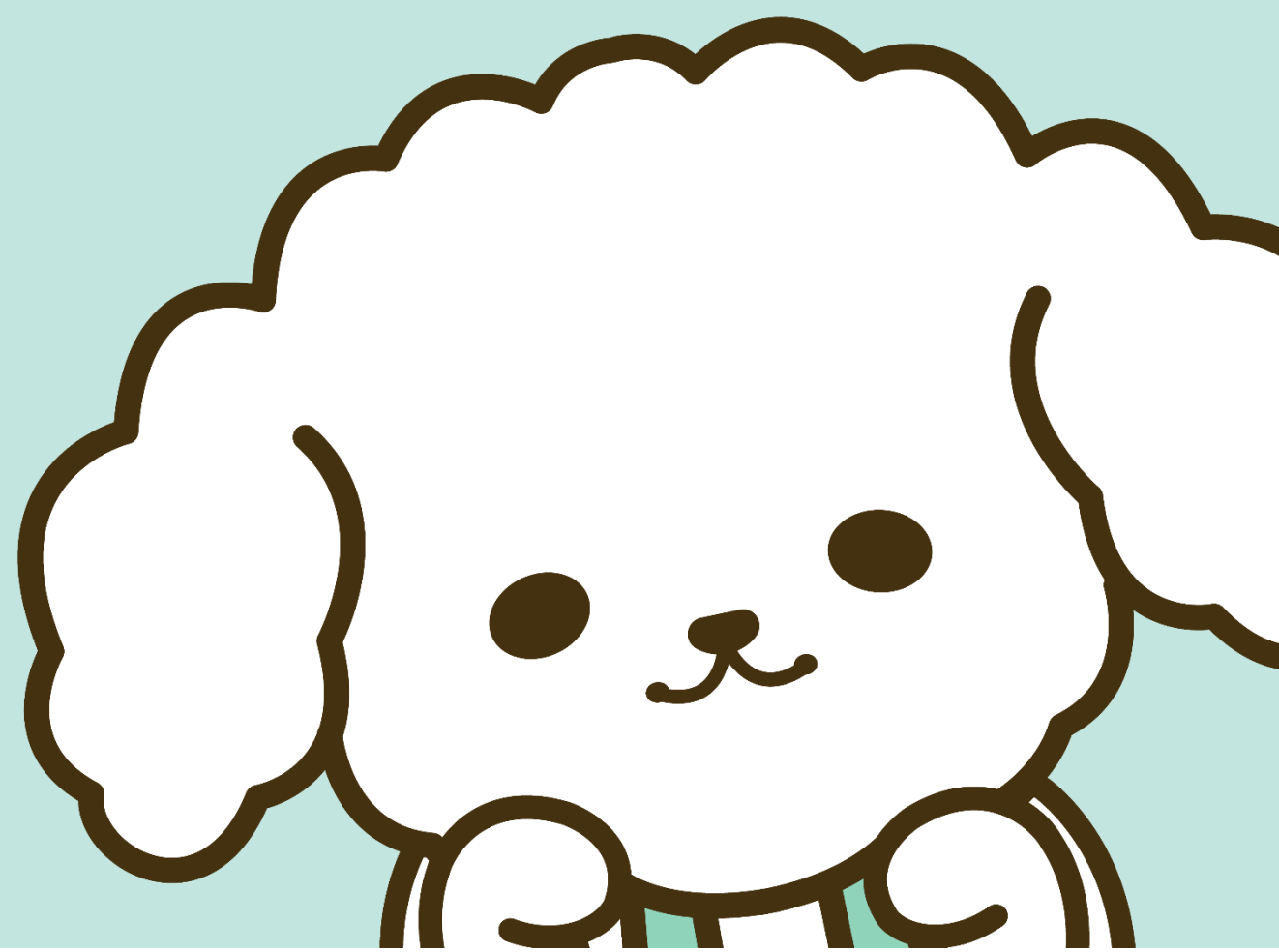


ケアプランデータ連携システム  
利活用促進事業



中津市 介護長寿課  
2024年11月7日 爲國

# 現状の介護現場

## 【悩み🗨️】

- ・書類を持参、郵送、FAXしている
- ・書類作成に時間を取られる
- ・手入力での作業が多い
- ・紙媒体での保管が多い
- ・保管する場所がなくなる
- ・請求返戻で時間を取られる
- ・人手不足(求人をだしても、人がこない)

など

**デジタルを活用して負担軽減を！**

## 【新たな悩み🗨️】

- ・デジタル化に取り組む時間がない
- ・知識がなく、何から始めてよいのかわからない
- ・入れているが活用できていない
- ・ベテラン職員が多く、対応できるかが不安

など



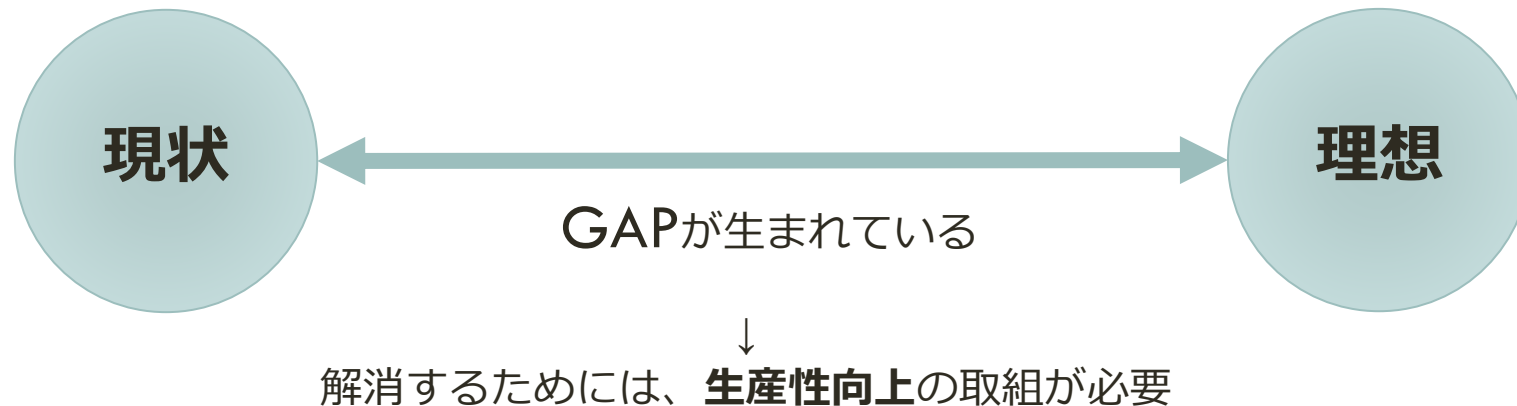
取り組むことへの悩み

# 理想の介護現場

## 【ありたい姿】

- ・利用者や家族との時間をしっかりとりたい
- ・テクノロジーを利活用し、生産性を高めたい
- ・書類業務、保管を削減したい
- ・人材確保したい

など



# 介護現場における生産性向上(業務改善)について

3M

## 【生産性向上に関する一般的な考え方】

現在の業務から「ムリ」「ムダ」「ムラ」をなくすことで、業務をより安全に正確に、効率的に行い、負担を軽くすることを目的として取り組む活動のこと。生産性向上させるには、その過程に着目することが重要とされている。

## 【介護現場に置き換える】

### ・ 「ムリ」・・・人材の心身への過度な負担

例)入社直後の職員がいきなり数十件のケースを担当する、独りで60件ケースを担当する 等

### ・ 「ムダ」・・・省略化できる業務

例)利用者情報などの記録を何度も転記している、利用者宅に忘れ物をしてもう一度訪問する 等

### ・ 「ムラ」・・・人、仕事量の負荷のばらつき

例)マニュアル通りに作業する職員と自己流の職員、状態に応じ介助する職員がいる 等

# 介護現場における生産性向上(業務改善)について

【介護サービス事業所における生産性向上に取り組む意義】

- ・人材育成
- ・チームケアの質の向上
- ・情報共有の効率化

【介護サービスにおける生産性向上のための7つの取組】

- ①職場環境の整備
- ②業務の明確化と役割分担
- ③手順書の作成
- ④記録・報告様式の工夫
- ⑤情報共有の工夫
- ⑥OJTの仕組みづくり
- ⑦理念・行動指針の徹底



**介護現場の生産性向上 = 介護の価値を高めること**

# ケアプランデータ連携システムの狙いと効果

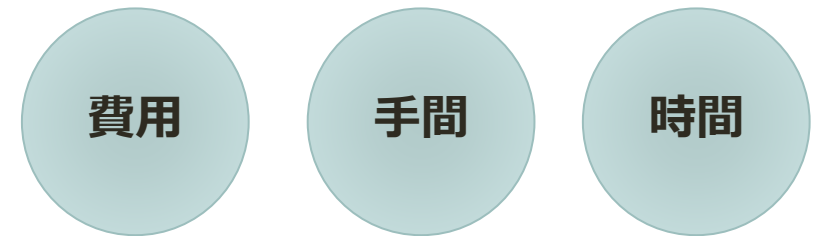


## 【狙い】

- ・居宅介護事業所が作成した計画書・提供票(予定)を、居宅サービス事業所で転記することなく活用することが出来るようにする。
- ・居宅サービス事業所が作成した提供票(実績)を、居宅介護支援事業所で転記することなく活用することが出来るようにする。
- ・個人情報を含むファイルを電子メールでやり取りするのは適切でないため、暗号化を実施する等、高いセキュリティ下でやり取りできる環境を作る。

## 【効果】

- ・手間、時間の削減による事務費等の削減
- ・従業員の「手間」の削減・効率化
- ・作業にかける「時間」の削減
- ・従業者の「心理的負担軽減」の実現
- ・従業者の「ライフワークバランス」の改善
- ・事業所の「ガバナンス」、「マネジメント」の向上



# ケアプランデータ連携システム利活用促進モデル地域づくり支援事業 について

## 【実施期間】

令和6年度中(令和7年3月31日まで)

## 【対象の事業所】

中津市内の介護事業所

## 【特典】

- ・NICCによる**導入サポート**を受けることができる
- ・アンケート調査等へ協力していただいた事業所には、  
1事業所あたり**21,000円**の謝礼あり

↳ケアプランデータ連携システムの1年分のライセンス料にあたる



【参考】

- ・介護分野における生産性向上ポータルサイト/厚生労働省
- ・ケアプランデータ連携システムについて /厚生労働省
- ・ケアプランデータ連携システムヘルプデスクサポートサイト
- ・ケアプランデータ連携システム/国民健康保険中央会
- ・ケアプランデータ連携システム利用状況/WAM NET

ご清聴ありがとうございました

2024年11月7日